

はくかんさん

護持会 新役員

伊東修新会長選出

護持会の改選で、三期九年間お勤め頂いた山下一会長が退任され、新しく伊東修会長が選ばれました。伊東会長は、これまで九年間副会長として、山下会長を補佐してきました。

第 86 号 H25 年夏号

伊豆市 法住寺 発行

◎ 宜しくお願い致します。〔敬称略〕

〔護持会長〕 総代 伊東修

〔副会長〕 総代 杉山勲

〔総代〕 森野道雄、室野義雄世話人代表

〔世話人〕 (元村)伊東徹、伊東由廣、

伊東幸二、(小川)室野義雄、

(清水)小塚建治、山下秀治、土屋正次、

(西)佐藤薫、佐藤敏明

半夏生

今年の中伊豆立正会、法住寺の当番は七月

であった。境内にちょうど咲いた半夏生を一輪、ご宝前にお供えした。

暦では七月二日が半夏生、この時節になると、上部の葉が白くなる。昔はこの時節、半夏生の葉が白くなるまでに田植えを終え、農休みをとったのだという。

*

ご宝前の半夏生を本堂いっぱいの方々に見てもらう。「半夏生」この季節にぴったりの字、「はんげしょう」素敵な名前である。一輪ざしも良い、楚々とした美しさがある。素敵な花である。

「ところで皆さん、半夏生はドクダミの仲間なんです」と言うと、会場は「ええっ！」、意外といった反応だった。ドクダミは根を深く張り繁殖力旺盛、畑などに出ようものなら大変である。そのままにしたら、ひと夏でドクダミ畑に化す程で、厄介ものなのだ。楚々として素敵な花と見ていた花が、ドク

ダミの仲間

となると見

方が変わる。当の半夏生

は何も変化

してないのだが、ドクダ

ミは厄介者という知識や意識によって見方が変わってしまうことがある。

*

翌日は祈願会、大勢の皆さんで一心にお経を読みお題目をあげて汗を流した。そして昨日と同じように半夏生を見てもらった。

感想を聞くと、一人の青年が「寂しそう」と答えた。花の名前は知らず、初めて半夏生を見たのだ。だから何の先入観も持たず、自分の目で見た、良い感性だと思った。確かに花は目立たなく寂しげである。だから葉を白くして受粉の虫を呼ぶのだそうだ。

私たちは花の名前を知っていると「ああ、半夏生ね」とうなづき、花そのものを見ていないことがある。知識で確認して、心で見えないのだ。花の名前を知るとはとても楽しいことなのだが、時に知識や意識は感性を鈍らせてしまうことがある。

*

小林秀雄の話は印象に残る。

『私は生来、オバケの話をするのが好きで、又至って謙虚なる態度をもって、この方面の知識を求め続けていた。それが近頃は、ふつとその試みを断念してしまつた訳は、一言で言うならば相手が悪くなったからである。先ず最も通例の受返事は、一応にやりと



ご宝前の半夏生

笑ってから、全体オバケというものは有るものでございませうかと来る。

凶精神といふものは、いつでも僕等の意識を超えているものです。その事をはつきり考えるなら、霊魂不滅の信仰も、とうの昔に滅んだ迷信と片付けるわけにはいかなくなるのです。』

*

知識や意識に凝り固まらず、素直で柔軟な心で見たり、魂で感じたりしたいものだ。お盆の季節、ご先祖さまの霊魂がお帰りになる。私たちが本来持っている素直で柔軟な心で感謝のご供養をしまりましょう。

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

仏さまはみそなわす

今年の五月の花まつりは「中伊豆ホールあじさい」にお願いし、ご本尊さまの前で歌わせて頂きました。

当日は、日本の叙情歌ふるさと等、たくさん檀信徒の皆さんに聞いて頂いて、また一緒に歌うこともでき、団員は大感激致しました。歌い始めて間もなく、不思議なことに気付きました。



何と小鳥たちがお堂の周りにいっぱい集まってきた、美しくさえずっているのです。お寺の杜には、うぐいすや色々な小鳥たちが住んでいるのですが、それこそ皆で集まって、まさに一緒に歌っているかのようにさえずるのです。

*

私は指揮をとりながら、こういうことが感応なのだ！と心が震えました。どんなに大きな立派なホールで演奏してもこういうことは起こらない。現実には起こっている不可思議な「真実」に胸打たれました。

*

『仏さまはみそなわす』、拙いながらも一生懸命に歌う衆生と、一心に聴いてくれる衆生と、そして集まってきた一緒にさえずる小鳥という衆生とを、やはり見ていて下さるのだと感謝の気持ちでいっぱいになりました。

地区懇談会

本堂積立会計が終了し、新しい役員会発足を機に、お寺に対するご意見を聞いて、改善できることはしようと、各地区で懇談会が開かれました。各地区の取りまとめを七月役員会で行い、九月に検討し十月のお会式総会には具体的な提案をする予定です。

志納金について

地区懇談会で志納金について意見、質問が出ましたので、歴史等を振り返ってみます。

「志納金は、どのように出来たのですか」

先代、日雄上人が法住寺に入山したのは昭和二十五年の春、戦後の困窮期でした。境内周辺はうっそうとし、庫裏は雨漏りしたり、渡り廊下は床が抜けたり、本堂の壁もよく剥がれたりしました。この時代はどこのお寺も家もそんな感じでした。

徐々に経済が安定してくると、自分たちのお寺を良くしようと、ご寄付(志納)して下さる方が出てきました。昭和二十年代の記録をみると次のようなものがあります。

「昭和二十七年」 本堂大幕(世話人一同)、大時計、金三万円、七条袈裟、とつくり80、
「昭和二十八年」 本堂内陣壁塗り、茶碗50。

大中小皿各20(檀家一同)、大提灯・座布団(題目講)、山門外灯、雨傘五本、

〔昭和二十九年〕 本堂蛍光灯一本、ツツジ

昭和三十年代には、テーブル、電灯、団扇大鼓、仏具等、現物奉納が多いのですが、金十万円等お金の奉納が出てきます。

昭和四十年代になると、皆さんの生活が経済的に豊かになり、だんだん志納して下さる方が増えます。仏具等が揃ってきたので、現物でなくお金で寄付してもらい、貯めてまとまった使い方をするようになりました。

こうしてお寺を良くしようと思志納金が一
般化してきました。

【会計はどうなっていますか】

ご寄付ですから「志納金会計」として独立した会計を持っています。護持会の会計係が担当し監査を経て護持会総会で報告し、檀家各家にお届けしています。会計はガラス張りに努めており、どれだけのご志納金があったか、何に使用したかを、皆さんに共有してもらっています。

「お布施」は法要や日々のご回向、山務に対する住職へのお礼・志しです。これは志しです。金額は決められないのですが、お葬儀の場合、目安が欲しいとの声が出ています。

【何に使っていますか】

お寺の建物や境内周辺の諸整備、仏具・法衣、建物共済等に使っています。

これまでの大きなものでは、第二墓地の三次に渡る造成、第一墓地参道舗装、境内拡張等があります。

平成十六年の台風で山門脇の大樹が倒れ、セギが崩れましたが、志納金の積立があつたので、石積み工事を直ぐに行い大水に備えることができました。



昨年石段の補修、

山門周辺整備を行いました。本堂前の石段は地域の文化財です。これから

大切にしていきたいと思ひます。また今年、第一墓地の壁工事、第二墓地の駐車場舗装、焼却炉工事をしました。

建物共済も志納金から毎年出しています。本来、護持会

右 第1墓地 壁工事
左 第2墓地 駐車場舗装、焼却炉



計で出すものと指摘されますが、護持会会計では賄うことが出来ません。詳しくは毎年、総会で資料を配布していますのでご覧下さい。

【これから志納金はどうなりますか】

本堂建設という大事業は終わりましたが、時代にあわせた整備も必要になるでしょう。また地震等の災害に備えておきたいと思ひます。長い歴史の中で皆さんのご先祖さまが築き上げてきたこと、皆さんの共有財産であること、また無理をし過ぎないように思ひ、役員会で検討し総会に提案していきます。

★七面山登詣

五月二五、二六(土、日)、今年も実施。ご来光を拝むことができました。本当に良いお詣りでした。

★境内整備作業

夏の境内整備作業は元村③の皆さんが境内周辺の草刈り作業を行ってください。何時も、ありがとうございます。

秋 9.15 元村① 年末 西

これからの予定

★お盆施餓鬼会 八月三日(土)午後三時

★子供寺子屋 八月七、八日(土、日)

★伊豆連合大題目

九月二十九日(日) 会場 法住寺

★池上お会式万灯 十月十二日

子供万灯も白龍会と一緒に参加し、お祭りを楽しみます。

御志心納金「四月〜七月」

西 杉山 修 殿 尊母葬儀砌
小川 鈴木佳和 殿 尊父葬儀砌
横浜 伊東伸孝 殿 愛妻葬儀砌
西 佐藤 雄一 殿 尊父五十回忌砌
清水 加藤正喜 殿 尊母葬儀砌
元村 飯田政春 殿 尊母三回忌砌
杉原美智子 殿 夫君寿量の塔納骨砌
木原殿、尾崎殿、清水殿、今井殿
寿量の塔納骨砌

「地区懇談会等で志納金額は出さない方がよいとの声がありましたので、そのようになっています。皆さまのご意見を聞きながら変えていきたいと思えます。」



洋明さんのおはなし

先日、ある若者から「お盆が近くなりまして。お盆の時に営む、お施餓鬼供養ってなんですか？」と一通のメールを頂きました。皆さんにとって仏事は、何故？何の為に？という疑問が多いことでしょう。何をすればよ、何故こうするのか「解っている」と「いない」では大違い。少し解るだけでも、一つ一つのことにと、とても深みが出てきます。

施餓鬼供養とは、餓鬼に施し供養すること。地獄(苦・怒の世界)、餓鬼(飢え・貪り・執着の世界)、畜生(理性の効かない本能の世界)の三悪道に堕ちて、安らげずに迷っている魂を救い、成仏してもらおう供養をいいます。お寺では、お盆だけでなく、いろいろな時に施餓鬼供養を行います。

* 私たちは、多くのご縁を頂き今があります。ご縁を下さった方、お世話になった方でも、時にその方の生前の生きざまによつては三悪道に堕ちてしまうことがあるのです。皆さんの唱えるお題目・施餓鬼供養は、その魂の苦や迷いを除き、安らぎを与えるのです。

このお題目や供養は善行といえます。仏さまは、善行を積んだ皆さんに、功德という宝物を下さいます。この功德は、自分だけでなく、七代前のご先祖さまから、七代後の子孫にまで行渡るのです。また皆さんの積んだ功德によつて、仏さまは、ご先祖さまに安らぎを、私たちに「守護や安穩を下さいます。」

* またこの三悪道は皆さんの心の中にも存在します。例えば『貧(ト)・瞋(ジン)・癡(チ)』という三毒に犯された心として現れます。「貧」とは、何でも自分の思い通りにしようとする欲深い心。「瞋」とは、すぐに腹を立てて怒り、都合の悪いことは自分ではなく、すべて人のせいにする心。「癡」とは、常に批判ばかりし愚痴を言い、他人を嫉妬する心。どれも自分が良ければいいと、都合の良い自分勝手な生き方の心です。この心は、誰にでもあります。私にもあります。

そこで八月三日の施餓鬼法要では、皆さんのお題目と供養で、ご先祖さまには安穩を、迷える魂には成仏を、皆さんには、『貧(ト)・瞋(ジン)・癡(チ)』三毒の心を少しでも浄化し、清らかな心が増えますように、家族と一緒に手を合わせて下さい。一人でも多くの方のご参加をお待ちしております。